

品川区は、サービス精神、チャレンジ精神、新感覚で、イメージアップ運動を進めています。

防災特集号

第1156号 毎月1・11・21日発行 発行/品川区 編集/広報広聴課 品川区広町2丁目1番36号(☎140)☎3777-1111(代)

しながわ

「自らの生命、財産は自らが」 「まちは地域ぐるみで」

地震等による災害が発生すると、区をはじめ消防、警察等、防災関係機関は総力を結集して、全力をもって救援活動を実施します。しかし、今回のような想像を超えた大災害になると、人員、資材等に限度があり、すべて行政だけで対応することは不可能になります。

「自らの生命、財産は自ら守る」「まちは地域ぐるみで守る」ことが災害時の基本です。

品川区は、区民で組織されている「地区防災協議会(各出張所ごとに設置)」と協力して、防災に対する準備、協力体制を整えています。

これらのことを再確認して、区民の皆さんも、防災に対する備えに万全を期してください。



兵庫県南部地震による被害
写真提供: 防災都市計画研究所

阪神地区

都市直下型大地震発生

「ひとごとではない」東京地方

1月17日早朝、阪神地区に都市直下型大地震が発生しました。この大地震による被害は、戦後最大のものとなりました。阪神大震災は、ひとごとではありません。万が一の時、大地震から命を守るためにどうしたらよいでしょうか。阪神大震災を教訓に、今回の防災臨時特集号では、日ごろの心構えや区の防災体制を紹介します。

万が一、大地震が発生したら……

人命救助・初期消火活動に 全面的協力を

地震直後の行政等の防災関係機関の救援活動は、人命の救助と火災の消火、被災者の救援を最優先に行います。

- 車での避難などマイカー等の使用は絶対にやめてください
- 電話の使用は、110番、119番通報などの緊急以外はできる限り控えてください

救援物資を 被災地に 緊急輸送

品川区は、東京都を通じて神戸市より依頼のあった、紙おむつ、粉ミルク、ほ乳ビン、生理用品、アルファ化米を1月20日、近隣区と共に職員が同行し、トラックで被災地に届けました。

今後とも、要請に基づきできる限りの救援、協力をしていきます。



平成4年の政府の中央防災会議において、今後20年以内に、マグニチュード(M)7程度の直下型地震が南関東地域で発生する可能性が高いと指摘されています。そのなかで、震度6以上になる恐れのある範囲として東京、神奈川、千葉、埼玉など7都県におよんでいます。また一部の地震専門家は、ここ10〜20年の間で、M6クラスの直下型地震が数回発生する可能性が高く「嚴重な警戒が必要」と訴えています。いつ地震が発生しても対処できるよう「十分な準備」と「心構え」が必要です。

いつきてもおかしくない
東京地方

大地震から 命を守るために



食糧・水などは 最低3日分の 備えを

災害時にはライフライン（電気・ガス・水道・電話）はすべてストップすることが考えられ、その復旧に相当、日数がかかります。

行政などは全力をつくしますが、体制、準備、道路状況などにより、本格的な救援活動は、2・3日後と考えるください。その間の食糧や水などは、各家庭で最低3日分、用意してください。その他衣類、医薬品、ラジオ、懐中電灯など生活用品の準備も必要です。

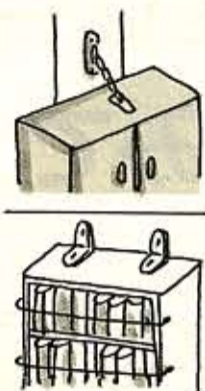


家具類は固定を

最近、地震発生時に家庭内でケガをする人が非常に多くなっています。

地震が起こると、タンス、本棚などの家具類は凶器となります。家具はすべて壁などに固定し、重い物は高い所に置かないなどの転倒防止策をとってください。

特に寝たきりの高齢者や乳幼児がいる部屋には、家具類はできる限り置かないようにしてください。



家庭内の 消火態勢

地震でいちばん恐ろしいのは火災による二次災害です。今回も同時多発火災が発生し、延焼が著しく、断水も相まって、多大な家屋の焼失、多数の尊い人命を失っています。初期消火がカギです。

消火器は各家庭に最低1本用意してください。風呂場や洗濯機にも水を残してください。

万一、火災が発生した時は、お互いに協力して火を消してください。その際、区で設置している街頭消火器も使用してください。

建物の耐震化・ 不燃化の促進

住居などの古い木造建築物は、耐震性をチェックしてください。建て替え計画がある場合は、不燃化も含め検討してください。（問い合わせは建築課へ）

避難は いつすべきか

地震即避難ではありません。避難が必要な時は

- ① 火災の延焼などにより身に危険がせまった場合
- ② 区の避難勧告・現場の消防、警察署員による避難の指示があった場合

地域での協力を

心身にハンディキャップのある人、寝たきりの人、災害で負傷された人、福祉施設に入所されている人などは、自力で避難することは困難です。家族はもちろんのこと、近隣の方々のその場その場での手助けが是非とも必要です。

地域住民一丸となつての救援をお願いします。

出口の確保

集合住宅などの鉄扉は、地震直後に変形した場合、開けることが困難です。必ず出入口を確保してください。

品川区の 備蓄・防災体制

区では大震災に備え、区内の備蓄倉庫に必要な物資を常時備蓄しています。

1、食糧等

乾パン、アルファ化米、山菜おこわ等、想定避難人口11万2千人の約2日分を備蓄しています。備蓄量は23区でトップ級です。（備蓄は区が1日分、都が2日目を降を調達します）さらに、区内精米業者（168店）と協定して、災害時には優先的に供給してもらいます。

2、飲料水

区内には、応急給水槽2基で区民全体の3日分を確保（1人、1日3ℓ）しています。

また、区内公共施設の受水槽、プールの水等を含め15日分以上確保しています。

4、区の本部体制

● 区の災害時の体制は、今回のような大災害の場合全職員が救援にあたります。

● 夜間・休日等勤務時間外は、防災センターに「災害対策専門職員」1人を常駐させるとともに、区内9か所に「災害対策職員待機寮」（約100人の職員が在住）を配置し、定期的に防災訓練を実施するなど、緊急時に対応できる体制をとっています。

3、消火用水の確保

消火栓が使用できない場合を想定し、区と東京消防庁は、公園や学校、建築物の地下に現在約千基の防火貯水槽（10ℓ、40ℓ）を設置しています。今後さらに設置していきます。



品川シアターで 地震体験を

無料

実際の地震時には、落ちついても確かな行動をとることが困難です。事前に身をもって体験しておくことが重要です。

区では地震時に冷静に対処できるよう、防災センター内に立体映像と起震装置による、実際の震度6の大地震が疑似体験できる映画館を設置し、上映しています。是非一度体験してください。

所在地/広町2-1-36 区役所本庁舎となり

上映時間/午前9時30分～午後5時（1日9回）

座席数/40席

休館日/第1日曜日と年末年始

家庭用消火器のあつ旋 防災用品の販売

1、消火器

区内の一般家庭を対象に粉末消火器（1.5kg入り）を格安であつ旋しています。

個人負担金/4,400円

（問い合わせは防災課まで）

2、防災用品

防災センター2階売店（土・日曜日、祝日は休み）で、各種の防災用品を販売しています。

※現在、注文が殺到し、1～2か月位かかりますので、ご了承ください

